

治水

発行所

全国治水期成同盟会連合会

東京都千代田区平河町2-7-5(砂防会館内)

編集人 川野正隆

印刷所 株式会社白橋印刷所

会費 (定価1部100円)

その他一般 (定価1部150円)

毎月1回15日発行

年頭所感

治水関係事業の更なる推進

……安全で安心な国土の創造に向けて……

全国治水期成同盟会連合会会長
参議院議員 陣内孝雄

平成15年の新春に当たり、会員の皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。

ご案内のとおり、当連合会は、昨年11月、全国河川総合開発促進期成同盟会と併合し、新しい連合会として発足いたしました。会員の皆様には、今後ますますのご指導、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

当連合会は、会員の皆様とともに、昨年秋、全国6地区において地方治水大会並びにその成果を結集した治水事業促進全国大会を開催し、平成15年度治水関係事業予算の要求額の全額確保により、治水の安全度の向上と水資源開発による水供給の安定化が図られるよう、国会並びに政府に対し強く要望いたしました。

その成果といたしまして、公共事業予算の縮減が図られる厳しい状況の中にあって、平成15年度治水関係事業予算は、事業費約16,533億円(国費約10,187億円)を確保することができました。

これら予算案は、治水関係事業の推進はもとより、20日招集される第156回通常国会冒頭に審議が予定されております補正予算とともに、低迷する景気への浮揚策としても、年度内成立が図られなければなりません。

また、同国会に提出が予定されております、従来の事業分野別であった五箇年計画を一本化し、社会資本整備の重点化・効率化を図ることを目的とした、社会資本整備重点計画法(仮称)につきましても、早期に成立が図られる必要があります。

次に、昨年、災害についてみますと、7月に相次いで上陸し関東地方を襲った台風6号、7号により、中部地方以北を中心に記録的な降雨による被害が発生いたしました。一方、近畿、中国、四国および九州では新年に至るも渇水対策が採られている河川があり、住民生活、生産活動に大きな影響が生じております。

本年3月には、アジアで初めて開かれる第3回世界水フォーラムが、水に関係する人びとが世界中から集まり、琵琶湖・淀川流域において開催されることになっており、その成果が大いに期待されているところであります。

全水連といたしましては、我が国が水による災害から守られ、安全で安心な国土の創造のために、今後とも、治水関係事業の重要性の啓蒙と予算の確保に努力して参る所存であります。

輝かしい平成15年の年頭に当たり、所懐の一端を述べ新年の挨拶といたします。

新年のご挨拶

重点区間への集中投資



国土交通省河川局長
鈴木 藤一郎

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。日頃より、河川行政に対して深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨今の厳しい財政事情や、少子・高齢化の進展等、社会経済情勢の変化を受けて、我が国全体として、制度・政策の抜本的な改革による徹底した構造改革の推進が求められています。平成15年度予算においても、公共投資関係費については、「前年度当初予算における額に100分の97を乗じた額の範囲内に抑制」する旨の考え方が既に示されています。

このようななか、河川行政においても、昨年6月に閣議決定された「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2002」の考え方に沿って、都市再生や循環型社会の構築といった分野への予算の重点化を図るほか、時間管理概念を導入し、改修効果の極めて大きい「重点区間」に対して集中投資することにより、早期効果の発現を目指した河川事業を進めてまいります。また、国土交通省全体の改革の動きに連動して、治水事業七箇年計画等の長期計画の改革、国庫補助負担金制度やコスト構造の改革、徹底した事業評価等にも積極的に取組み、真に必要な公共事業の展開にこれからも努める所存です。

また、昨年も7月の台風6号に伴う豪雨等により、相次いで水害・土砂災害が発生しました。厳しい財政事情にあっても、災害への対応は国家の重要な責務であり、安全で安心できる国土づくりのため、引き続き抜本的な治水対策に取組むとともに、ハザードマップの整備・普及促進や、災害情報の伝達の円滑化等、ハード・ソフト連携した対策についても引き続き推進してまいります。

時代の変革期にあり、公共事業にとっては、暗く厳しい話題も多く、苦境に立たされている今だからこそ、国民にとって夢と希望をもてる社会の構築のため、河川行政に何ができるかということを念頭に、最大限の努力を払っていきたいと思っております。

最後に、皆様方の一層のご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、益々のご発展を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

平成14年度 治水事業促進全国大会

と き：平成14年11月21日 ところ：東京都 砂防会館別館



平成14年度治水事業促進全国大会は、平成14年11月21日、午後1時30分から砂防会館別館において開催された。大会に先立って開催された平成14年度臨時総会において、全国治水期成同盟会連合会および全国河川総合開発促進期成同盟会の両団体の併合が成立し、新しく発足した全国治水期成同盟会連合会の主催で行われた。

本大会は、治水施設の整備および水資源対策の強力な推進を図るため、平成15年度治水関係事業予算要求額の満額確保に向けて、全国6地域において開かれた地方治水大会の成果を結集して開催された。

第1部では、望月常好国土交通省河川局治水課長から、我が国における治水事業の現況と多発する河川災害の経年被害等について講演がなされた。

第2部の促進大会では、中馬弘毅国土交通副大臣、岩城光英同大臣政務官、衆参両院国会議員をはじめ、大石久和技監、鈴木藤一郎河川局長ほか河川局各課長ならびに関係団体の長を来賓として迎え、全国から市区町村長ら治水および利水関係者ら1,600名余が参加し盛大な大会となった。

大会は、定刻の午後2時に開会され、政務の都合により出席できなかった陣内孝雄全水連会長に代わり、林 芳男全水連理事（滝川市長）が主催者として挨拶し、大会議長に推挙された。

中馬副大臣が祝辞を述べ、臨席されている国会議員のほか技監並びに河川局長が紹介された。

意見発表に入り、小川 敏岐岐阜県大垣市長ならびに景山 一鳥根県頓原町長が意見を述べた。

大会決議文を梶田與一全水連理事（大洲市長）が力強く朗読し、全会一致により原案のとおり決議された。

国会議員ならびに治水および利水関係省庁への要望活動について説明があり、平成14年度治水事業促進全国大会は、盛会裡にその幕を閉じた。

第1部 講演

講師：望月常好

国土交通省河川局治水課長

テーマ：治水事業の現況



講演の内容等につきましては、誠に勝手ながら割愛させていただきました。

第2部 治水事業促進全国大会

主催者挨拶



全国治水期成同盟会
連合会会長代理
同連合会理事・滝川市長

林 芳 男

本日ここに、平成14年度治水事業促進全国大会を開催するに当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、政務誠に多忙のなか、中馬国土交通副大臣をはじめ、多数の国会議員並びに来賓のご臨席を賜り誠にありがたく、厚く御礼申し上げます。また、全国各地から市町村長ほか、平素、治水関係事業の推進にご活躍されておられます方々が、このように多数ご参集になり、本大会が盛大

に開会できますことは、主催者といたしまして誠に心強く、ご参列の方々の治水関係事業に対する深いご理解と、ご熱意に心から敬意を表する次第であります。

さて、我が国におきましては、自然災害、特に水害から国民の生命と財産を守るため、古くから河川整備事業の推進が図られて参りました。これにより水害等に対する安全度は、かなり向上してまいりましたが、その整備率は目標の半分程度の水準に過ぎません。

このため、私達は常に災害と隣り合わせに生活しているというのが現状であります。

また、近年、年間降水量の減少傾向に伴い、枯渇する河川が多く、各地で取水制限の措置が採られるなど、近代国家としてふさわしくない現状にあります。

これらのことから、治水施設の整備をはじめ、水資源対策による水の安定供給や、水質改善、そして水辺環境整備等を強力に推進することにより、活力ある安定した経済社会と安全で快適な生活環境を築くことが、国家としての使命であると考えます。

当連合会は、この秋、平成15年度治水関係事業予算要求額の満額確保をめざし、各地において、地方治水大会を開催してまいりました。

本日ここに、その成果を結集し所期の目的を達成するため、本大会を開催した次第であります。

当連合会といたしましては、公共事業を取り巻く厳しい現実直面している時にこそ、治水関係事業の強力な推進を図る必要があることを、国会ならびに政府に対し、強く働きかけて参る所存であります。

ご参列の皆様方の今後ますますのご活躍を祈念申し上げます。

平成14年11月21日

全国治水期成同盟会連合会
会長 陣内孝雄

来賓祝辞



国土交通副大臣

中馬 弘毅

本日ここに、平成14年度治水事業促進全国大会が開催されるに当たり、一言ごあいさつを申し上げます。

ご列席の国会議員の先生方、全国治水期成同盟会連合会及び全国河川総合開発促進期成同盟会の皆様方には、平素から国土交通行政の推進につきまして、多大なるご支援をいただき厚く御礼申し上げます。

ご承知のとおり、我が国は、地形、気象などの自然的条件に加え、流域の土地利用が進んでいるため、水害が起りやすい環境にあります。

本年も7月に台風6号、7号、10月に台風21号が相次いで来襲し、全国各地で洪水による大きな被害が発生しております。

一方で、近畿、中国、四国、九州の各地方では渇水被害も発生しており、改めて治水事業の重要性、必要性を痛切に感じております。

このような状況のもと、昭和23年に結成された全国治水期成同盟会連合会と、昭和26年に結成された全国河川総合開発促進期成同盟会におかれましては、結成以来、治水・利水事業の推進、治水関係予算の確保を目的に活動してこられました。両団体の永年のご尽力とご支援に対しまして、厚く御礼申し上げます。

昨今、公共事業について多くの問題提起がなされ、その見直しが強く求められていますが、治水事業は、国民の生命と財産を守るという、国家の最も基本的な責務です。洪水や渇水は、一たび発生すれば、多くの人命を奪うばかりか、国民の社会経済活動に著しい損失を与えます。これらの被

害を回避し、軽減することは、国の危機管理施策上、重要な課題であります。

国土交通省といたしましては、このような認識のもと、災害に強い、安全で質の高い社会基盤を形成するとともに、水と緑に恵まれた個性ある地域づくりを推進するため、新たな長期計画を策定し、平成14年度補正予算を含めた治水関係事業予算の所要額を確保することにより、着実に治水事業を推進してまいり所存であります。

本日、全国各地から治水事業に携わる方々が一堂に会され、両団体が統合して、はじめての治水事業促進全国大会が開催されますことは、誠に意義深いことであり、皆様の貴重なご意見を、今後の施策に十分反映させてまいりたいと考えております。

終わりに、本日ご列席の皆様のご治水事業に対するご尽力に対し、改めて敬意を表しますとともに、今後のますますのご発展とご健勝を心から祈念いたしまして、私のお祝いの言葉といたします。

ご臨席賜りありがとうございます

(敬称略)

衆議院議員

荒巻 隆三	井上 義久	伊藤信太郎
稲葉 大和	岩倉 博文	岩永 峯一
岩屋 毅	小渕 優子	大木 浩
木村 太郎	木村 隆秀	佐田玄一郎
佐藤 静雄	佐藤 剛男	下地 幹郎
田中 和徳	田野瀬良太郎	高木 毅
竹本 直一	谷畑 孝	中谷 元
中山 利生	仲村 正治	西川 京子
古屋 圭司	三ツ林隆志	御法川英文
森田 一	保岡 興治	山口 俊一
吉田六左エ門	吉野 正芳	

参議院議員

泉 信也	岩城 光英	田村 公平
竹山 裕	山崎 正昭	吉田 博美

衆議院議員 (代理出席)

安倍 晋三 相沢 英之 青山 丘
 浅野 勝人 麻生 太郎 赤羽 一嘉
 栗屋 敏信 伊藤 達也 伊吹 文明
 池田 行彦 石川 要三 石破 茂
 石田 真敏 今村 雅弘 石井 啓一
 井上 喜一 植竹 繁雄 江藤 隆美
 衛藤征士郎 小此木八郎 尾身 幸次
 大島 理森 大野 松茂 大野 功統
 大村 秀章 太田 誠一 奥谷 通
 奥野 誠亮 奥山 茂彦 大谷 信盛
 梶山 弘志 金子 一義 金子 恭之
 金田 英行 上川 陽子 亀井 久興
 川崎 二郎 瓦 力 岸田 文雄
 北村 直人 熊谷 市雄 倉田 雅年
 小坂 憲次 小西 理 後藤田正純
 高村 正彦 近藤 基彦 左藤 章
 佐藤 勉 坂井 隆憲 坂本 剛二
 桜田 義孝 笹川 堯 自見庄三郎
 白保 台一 新藤 義孝 杉浦 正健
 杉山 憲夫 鈴木 俊一 園田 博之
 田村 憲久 田端 正広 高鳥 修
 竹下 亘 橋 康太郎 棚橋 泰文
 谷 洋一 谷垣 禎一 谷田 武彦
 谷本 龍哉 樽床 伸二 近岡理一郎
 土屋 品子 渡海紀三朗 中川 昭一
 中川 秀直 中曾根康弘 中山 成彬
 長勢 甚遠 丹羽 雄哉 二階 俊博
 西田 司 西 博義 野田 聖子
 野中 広務 野呂田芳成 葉梨 信行
 萩山 教嚴 橋本龍太郎 蓮実 進
 馳 浩 林 幹雄 林田 彪
 原田昇左右 菱田 嘉明 平井 卓也
 平林 鴻三 福井 照 福田 康夫
 福島 豊 藤井 孝男 二田 孝治
 保利 耕輔 細田 博之 堀内 光雄
 牧野 隆守 増田 敏男 増原 義剛
 松下 忠洋 松野 博一 松宮 勲
 松本 和那 松浪 健太 三塚 博

水野 賢一 宮腰 光寛 宮澤 喜一
 宮澤 洋一 宮下 創平 武藤 嘉文
 村井 仁 村岡 兼造 村上誠一郎
 村田 吉隆 持永 和見 望月 義夫
 茂木 敏充 森 英介 森岡 正宏
 森山 真弓 谷津 義男 柳本 卓治
 山口 泰明 山中 貞則 山本 明彦
 山本 公一 山本 幸三 山本 有二
 横内 正明 吉川 貴盛 吉田 幸弘
 米田 建三 渡辺 具能 渡辺 博道

参議院議員 (代理出席)

阿部 正俊 愛知 治郎 青木 幹雄
 井上 吉夫 市川 一郎 岩永 浩美
 入澤 肇 上杉 光弘 上野 公成
 魚住 汎英 小野 清子 尾辻 秀久
 大仁田 厚 大野つや子 大江 康弘
 太田 豊秋 加治屋義人 加藤 修一
 加藤 紀文 狩野 安 景山俊太郎
 片山虎之助 金田 勝年 亀井 郁夫
 河本 英典 木村 仁 岸 宏一
 北岡 秀二 国井 正幸 小泉 顕雄
 小斉平敏文 小林 温 後藤 博子
 近藤 剛 佐藤 泰三 斉藤 滋宣
 斎藤 十朗 佐藤 雄平 白浜 一良
 椎名 一保 鈴木 政二 関谷 勝嗣
 伊達 忠一 谷川 秀善 谷林 正昭
 田名部匡省 常田 享詳 鶴保 庸介
 中川 義雄 中島 啓雄 中島 真人
 中曾根弘文 仲道 俊哉 西田 吉宏
 野上浩太郎 野間 赳 林 芳正
 弘友 和夫 真鍋 賢二 松田 岩夫
 松村 龍二 松山 政司 森本 晃司
 森山 裕 矢野 哲朗 山内 俊夫
 山崎 力 山下 英利 山下 善彦
 山本 一太 若林 正俊 脇 雅史
 渡辺 孝男

祝電ありがとうございました

—— 到着順敬称略 ——

衆議院議員

小林 興起 中村正三郎 若松 謙維
伴野 豊 小里 貞利 実川 幸夫

参議院議員

藤井 俊男

意見発表



大垣市長

小 川 敏

大垣市の治水対策

ただいまご紹介いただきました岐阜県大垣市長の小川でございます。本日は治水事業促進全国大会がこのように盛大に開催されますことをまづもってお喜び申し上げます。そしてまた、このような場で私ども意見発表をさせていただきますことを、心より厚く御礼を申し上げます。

それでは、パワーポイントを用いてご説明をさせていただきますと思います。

まず最初に、岐阜県大垣市の概要を紹介させていただきます。

現在、日本の人口の重心は岐阜県にあるとされているわけでございますが、私ども大垣市は、岐阜県の南西部に位置しております。木曾三川の1つであります揖斐川の恩恵を受けて発達した都市であり、面積80平方km、人口約15万人で岐阜県第2位の人口を抱えております。

大垣市は、江戸時代は米どころとして栄えまして、10万石の城下町でございました。水と緑と情報、魅力ある生活文化都市を都市像といたしまして、水とのかかわりが非常に深く、その1つとして、良質で豊かな地下水に恵まれていることが挙げられます。

JR大垣駅から北東1.5kmに位置する神社の境内にある自噴井であります。市内の方々でわき水が見られ、豊富で良質な地下水を水道水として供給するとともに、繊維工業など産業の発達の礎となりました。

今日では、国際的な産業構造の変化や技術革新などにより、電子部品などの電気機械器具製造が主たる産業として立地しておりますが、大理石加工工業等の地場産業の振興とともに、企業の高度化、高付加価値化などにより一層の産業振興を図っているところでございます。特に、新たな次代を担う情報関係産業を推進しており、高度情報基地、ソフトピアジャパンを活用して情報産業の集積や新産業の育成支援に力を入れているところでございます。

次に、大垣市の地形について概要を申し上げます。沖積平野の上に広がる大垣市は、農地から住宅地や工業用地などへの土地利用の高度化が進んでおります。市内には、揖斐川や牧田川、杭瀬川の主要河川のほか、水門川、大谷川、相川などの支川が縦横に流れております。この地域は海拔5m～6m程度と低く、揖斐川は天井川であることや、大谷川など支川の勾配が極めて緩やかであ

大垣市の地形



(北方向に大垣市内を望む)

写真 1

ることから水はげが悪く、水害には弱い地形であり、大地には水との闘いの歴史が刻まれております(写真1)。

水との闘いの証の1つとして、輪中があります。輪中とは、集落の外周に堤防を設けることにより外部からの洪水の進入を防ぎ、集落を水害から守るものであります。大垣市を含む木曽三川下流域には輪中が発達しており(写真2)、左側の図面は大垣市内の輪中の位置をあらわしております。

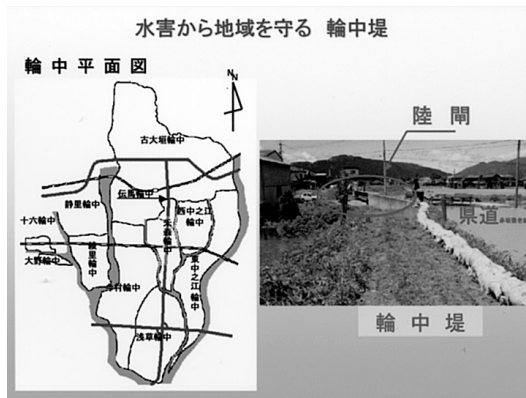


写真2

また、右側の写真は、大垣市郊外にある輪中堤であります。道路整備などで輪中堤を切断することはあっても、代替機能として陸閘が設けられ、今日でも輪中の機能は維持されております。

次に、本年7月10日台風6号が来ましたが、大垣市地方に大きな災害をもたらしましたが、その「台風6号と梅雨前線による集中豪雨災害」について、その概要を申し上げさせていただきます。

7月9日深夜の雨の降り始めから雨が止む10日16時ごろまでの雨量図でございます。図に示しておりますように、牧田川上流部と揖斐川上流部で累積雨量400mmを超える降雨があり、特に揖斐川支川、根尾川沿いの根尾村では562mmの記録的な大雨となりました。また、時間最大雨量は、牧田川上流部で85mm、根尾川上流部で111mmの猛烈な雨となりました。

この豪雨により、まず牧田川から洪水が始まり、烏江(からすえ)地点では10日7時に計画高水位を46cm上回りました。その後、牧田川の出水に4

時間遅れで揖斐川万石(まんごく)地点で10日11時に計画高水位を30cm上回る今までで最大の出水となりました。

支川の杭瀬川においては、上流で降った降雨により水位が上昇した後、牧田川からの出水が支川の杭瀬川に逆流したことから、さらに水位が上昇しております。また、杭瀬川支川の大谷川でも逆流により水位の上昇が加わり、大谷川荒崎地先の洗堰におきまして、10日午前6時から越流が始まり、11日午前7時までの25時間にわたって続きました。越流が長時間にわたり継続した理由としましては、支川に逆流した水が行き場を失ったこと、さらには、長時間にわたって揖斐川の水位が高い状態が続いたため、支川の水が揖斐川に流入することを妨げられたことによるものでございます。

この結果、大垣市内では大谷川や杭瀬川沿いなどで河川からの越流や内水湛水により延べ浸水面積880ha、浸水家屋660戸にのぼる大水害が発生いたしました。なお、河川の決壊や破堤を免れ、さらには人災が発生しなかったことは不幸中の幸いでございました。

これは(写真3)、大谷川洗堰からの越流により浸水した大垣市西部に位置する荒崎地区の浸水の状況でございます。この荒崎地区では大谷川洗堰からの越流などにより浸水面積234ha、浸水家屋数は482戸と被害が集中いたしました。

次は、大谷川洗堰付近の堤防断面図でございます。右岸堤防は左岸堤防に比較して1m低くなっ



写真3

ていること、また、右岸側に設けられている洗堰は左岸堤防に比較して2.2m低くなっております。大谷川の水位上昇により洗堰から越流する仕組みになっております。右岸側と左岸側では治水の安全度に格差がありますが、ここで洗堰成立について紹介させていただきます。

大谷川一帯では、江戸時代には綾里輪中が、その後明治時代には静里輪中、十六輪中が成立しました。当時は大谷川には河川堤防はなく、大谷川の右岸一帯の低地は大雨が降れば水が貯留し、遊水機能を果たしていた地域でした。戦後、右岸側の地域が食糧増産の要請から、土地改良事業と同時に昭和33年河川堤防が設けられました。しかし、遊水池を締め切ると河川の水位が上昇し、既存の輪中堤防が破堤する恐れがあることから、大谷川堤防の右岸、左岸で高低差を設けるとともに、洗堰が設置され、遊水機能を存続してきた歴史的な経緯がございます。

これは、現況の洗堰を大谷川右岸上流から写したものです。大谷川増水時は水色の線の方向に越流することになります。これは7月10日台風6号による大谷川洗堰からの越流の状況でございます。さらに、荒崎地区内の浸水状況でございます。荒崎地区には洗堰からの越流により約330万t、また内水湛水により約170万t、合計500万t湛水しましたが、国土交通省に排水ポンプ車を出動要請し、28時間ではほぼ排水が完了いたしました。従来の浸水災害に比較して2倍の早さで湛水を排除でき、早期に復旧作業に着手できましたことから、排水ポンプ車による排水は大変大きな役割を果たしました。排水ポンプ車の出動等でお世話になりました国土交通省の関係者に、改めて心より感謝申し上げます。

「台風6号と梅雨前線による集中豪雨」による災害は、閣議決定によりまして激甚災として指定をされました。相川や大谷川の河川管理者である岐阜県と、杭瀬川の管理者である国土交通省中部地方整備局から、おのおの河川災害について災害復旧事業の申請をされ、また大垣市としても国土交通省や財務省などへ事業採択を強く要望したところでございますが、10月31日をもって災害関連

事業や、直轄災害復旧等関連緊急事業として採択をされました。

さらに、岐阜県から大谷川、相川等の河川について床上浸水対策特別緊急事業を予算要求中であり、これらの事業が総合的に行われますと、低平地を流れる大谷川、相川及び杭瀬川が均衡の取れた河川整備が進むことになり、私ども大垣市といたしまして早急な整備を強く期待しているところでございます。

なお、大垣市といたしましても、浸水位表示板の設置、ハザードマップの作成などを進めておりますが、さらに、仮設土のう積みの設置を今提案しているところでございます。仮設土のう積みとは、洗堰からの越流による住居への浸水対策として、河川改修が完了するまでの間の暫定措置といたしまして流域内の農地などに带状に土のう積みを仮設工として計画するものでございます。

さらには、大谷川、相川などの支川の洪水を円滑に揖斐川に流入させる必要があり、そのためには揖斐川の洪水時の水位を下げるのが重要な課題となっております。揖斐川流域全体で同様の課題を抱えております揖斐川流域内の25市町村では、自治体が一体となって治水事業の促進事業要望活動を現在続けているところでございます。

揖斐川流域25市町村では、次の3点を特に重視して要望活動をさせていただいております。揖斐川本川の洪水調節に必要な徳山ダムの重点的な事業促進、2番目には、機能低下の著しい横山ダムの堆積土砂の除去の促進、3番目に、河道を掘削することによる流下能力の向上や、堤防の増強など揖斐川の河川改修事業の促進でございます。

揖斐川では、この40年間に12回もの大きな水害が発生しており、また、平成6年には揖斐川が完全に干上がり、今までなかった渇水を経験いたしております。このため、徳山ダムによる洪水制御や水資源の確保といったことは地域にとって必要不可欠でございます。徳山ダムの整備によりまして、既応最大である伊勢湾台風クラスの出水に対して大垣市万石地先で揖斐川の水位を1.4m下げることができるものであります。このことにより、揖斐川からの越流や、破堤による水害から大垣市

内を守ることができること、さらには、杭瀬川、大谷川などの支川からの洪水を早期に揖斐川に流すことができることなど、治水対策上非常に重要な役割を果たすものであります。

横山ダムは、揖斐川上流部に洪水調節、かんがい用水の補給などを目的に昭和39年完成されました多目的ダムであります。平成11年の山腹崩壊などによりダム湖に大量の土砂が堆積し、洪水処理能力が低下しております。このため、ダムの治水容量の回復を図る必要が生じており、堆積土砂の掘削など事業の推進を強く要望しているものでございます。

このほか、大垣市内では揖斐川の河道を掘削することにより流下能力を増大させることや、堤防の増強など直轄河川改修事業の促進が重要となっております。幸い、国土交通省、水資源開発公団や財務省のご理解によりまして、徳山ダムが平成19年度完成見込みとなり、また、直轄河川改修事業も同時期に完成させることで、鋭意事業が進められているところでございます。揖斐川流域25市町村45万住民の生命と財産を守り、安心して生活できることが私どもの悲願であり、徳山ダム事業や直轄河川改修事業とともに、支流の相川や大谷川の河川改修事業が整合性のとれた形で平成19年までに着実に完成されるよう、今後とも強力に要望や支援を進めてまいりたいと思っております。

大垣市では、豊かな地下水によりまして今日までの市民生活が育まれ、そして、地域の経済発展がなされてきたわけでございますが、水による恩恵を受けると同時に、また、水によって苦しめられた水との闘いの歴史がございます。市民の生命と財産を守り、安心して暮らすことができるまちづくりを進めるためには、河川改修やダム事業などにより治水事業を強力に推進することが最も重要でございます。

本日の治水促進全国大会を契機に全国の治水事業が一層促進されますことをお祈り申し上げ、意見発表とさせていただきますと思います。

本日は、どうもご清聴いただきましてありがとうございました。

お断り 岐阜県大垣市長は意見発表に際しまして、パワーポイントにより14枚の写真について紹介されましたが、誠に勝手ながら紙面の都合により、そのうちの3枚のみご紹介させていただきます。



島根県頓原町長

景山 一

ダムを活かした地域づくり

ご紹介いただきました島根県頓原町長の景山でございます。

きょうは、この治水大会におきまして私の意見発表の機会を与您いただきましたこと、心から光栄に思い、お礼を申し上げたいと思っております。

私の町は島根県のほぼ中央に位置しております。広島県境に近い町でございます。人口3000人、地積が124平方kmという90%が山の町でございます。きれいな水がわき出し、農産物は安全でおいしい、そして、自然の豊かな町でもございます。私の町は、花とメロンとスキーの町頓原でございます。

さて、さかのぼること30年、昭和47年の7月9日でございます。山陰地方を襲った豪雨は、やむことを知りませんでした。1週間の降雨が続きまして、下流の松江市を中心にして大変な水害が起こってまいりました。死者13名、水没家屋、何と2万9266戸でございます。農地は、簸川平野を中心として1万500haが水没をする。しかも、1週間続いたというのが非常に特色でございます。

ここで、私事になりますけれども、たまたま7月10日に、たった1人おりました私の叔母が松江に住んでおりましたけれども、危篤であるという

電話をもらって松江に出かけました。普通ですと大体1時間ちょっとで出る松江へ、4時間以上の時間をかけてたどり着きました。叔母は残念ながら亡くなっておりましたけれども、叔父がたまたま松江国道に勤務しておる公務員でございましたので、この水害の中で帰れなかったと。晩年に叔父が「死に水を取ってやれなかったのが残念だ」と嘆いておりましたけれども、そんなことで、私この水害の期間をほとんど松江で過ごしたものでして、この水害の強烈なことを今でも脳裏に焼きつけておるところでございます。

皆さんご存じかと思えますけど、私の地方に神話がございます。おろち退治という神話でございます。頭が八つ尾が八つ、大きな八またのおろちが奥出雲に住んでいる。そこに8人の娘さんを育ててきた老夫婦がおります。ある年に、そのおろちが上の娘さんをさらっていった。毎年出てきて1人ずつさらって行って8年目に1人残った。嘆き悲しんでおるおじいさん、おばあさんのところへ素戔嗚尊が出てこられて、事情を聞いて同情して、自分がそのおろち退治をしてやろうと。これがその伝説の一節でございますけれども、これは何を物語っておるか。1級河川斐伊川が氾濫をする、このことによって沿線の住民が非常に苦しんできた。ですから、古代からそういう暴れ川、斐伊川であったということを物語っておると思えますけれども、そんなことで大変な水害が起こってまいりました。

島根県でも、これは放っておけないということで、国との協議の結果、50年に斐伊川神戸川治水事業が発表をされました。上流に2つのダムをつくって、中流で、出雲市のところでございますけれども、4kmだけで斐伊川があり、一方に神戸川があるという非常に接近したところがございます。そこで、放水路をつくって斐伊川の水を一部神戸川に分流しよう、そして、下流の松江市で川の拡幅工事をしようといういわゆる三点セットの事業でございます。上流の1つのダムが私の町に計画として上がったのでございます。

97戸の水没、私の町の規模からいたしますと1割の家が水没している。町にとっては大変な状況

でございます。たまたま私も議会に席を得ておりましたので、先ほど申しました松江のあの惨状を私の頭の中に植えつけておる中で、私の町がどう判断すべきか、どう方向づけをすべきか、本当に悩み、苦しんだのでございます。

時の島根県知事恒松治氏、まだご存命ですが、政務を終えて1時間余りの時間を頓原まで来て、夜、被害の対象になる家々をお願いをして回られた、これは有名なエピソードでございます。そんなことで時間がかかりましたけれども、頓原町はダムを受け入れるということになってまいりました。

ちょうど私が町長に就任したのが、平成3年でございます。用地買収は終わっておりましたけれども、地域住民の意識は荒廃しておりました。私がなすべきことは何なのか、いろいろ思い悩みましたけれども、未来を含めていることを仕掛けをしておりますけれども、4つだけ話をさせていただきますと思います。

まず、荒廃した人の気持ちをどう取り返すか、地域の活力をどう取り返すか。その中には、まず公民館を立ち上げるべきだということで公民館の立ち上げをいたしました。本当にいい人を得た。公民館長に素晴らしい人を得たのが今の地域の組織づくりができ、活動が活発にできておることにつながっております。

2つ目は、用地の荒廃を防ごう。40haある農地が、ダムが完成するまでに荒廃しては、協力をしてもらった皆さんに申しわけない。その年から春はポピー、秋はコスモスの花をその耕地に咲かせました。その作業は地域の皆さんが総出でやってくれたのであります。おかげで交流人口は非常にふえてまいりました。

「あっ、これからのダム完成後のこの地域の活性化は、ここにあるな」と思いながら3つ目の報告をさせていただきます。先ほど言いましたように、私の町が生きていくために、交流人口の拡大は不可欠である。であるなら、どんな形でそれを進めていくか。ドイツにあるクラインガルテンを導入していこうと、いろんな勉強もしてまいりました。視察もしてまいりました。議会も、地元の

住民も、また我々執行部も勉強を重ねながら、今建設が進んでおります。来る24日に説明会をすることにいたしておりますけれども、非常にたくさんの方が、関西方面、広島方面、そして、地元島根県から問い合わせをいただいております。恐らく、かなりの競争率になるであろうと思って期待もかけております。

もう一つは、ダム湖周辺の森林をどう生かすか。ダム湖周辺に民有地が600haだけございます。これを買って町で管理をきちっとしていくことによって、将来すばらしい自然を残していけるんじゃないか、そんな思いの中から9月定例議会に提案をして、用地の取得を決定したところでございます。600haを管理することは大変ですけれども、30年、50年の管理の中で、ダム湖と合わせてすばらしい自然ができるであろう。22年にダム完成となっておりますが、完成した暁には松江市を中心にした災害が防げていくであろう。そして、上下流の交流がさらに活発になっていくであろうことを夢見ているところでございます。

さて、最近緑のダムで治水ができると、脱ダム宣言といったようなお話も、考え方もございます。

私たまたま、具体的な材料じゃありませんでしたけど、緑のダムで対応できるのは100mmまでだろうなと思っておりましたら、先ほどの望月課長さんのご講演の中に、まさにそのことが裏づけられておって、「あっ、私が思っておったこと間違っただけだったな」、そんなふうにお聞きをさせていただきましたけど、それを越すたくさんの雨が全国各地で毎年降っております。今の私の地域でも、50%ぐらいな進捗率ですけれども、同じ雨が降ったらまた同じ災害が起こる。完成していませんので、同じことの繰り返しになる。そんなのとて緑のダムで対応はできない。ハード事業がどうしても必要である。それにあわせてソフト事業をいかに調和させていくか、これがこれからの国民の安心と安全を守る大きな課題ではないかなと思っておるところでございます。

ここへお集まりの皆さん方は、恐らく同じような思いでおっていただくとお思います。力を合わせて皆が一緒になって、国民の安全、安心を守っていくために頑張ろうではありませんか。

私のつたない発表でございましたけれども、ご清聴いただきましてありがとうございます。

大会決議

決議案



全水連理事・大洲市長
榊田 興一

我が国は、急峻な地形、狭い低平地に人口・資産が集中している等の厳しい自然的・社会的条件から、災害に対して非常に脆弱な国土構造にある。特に、最近土地利用の高度化、地下

空間利用の増加により、水害ポテンシャルが増大している。

このため、国土を保全し、洪水等の被害から国民の生命と財産を守り、活力ある経済社会と安全で快適な生活環境を築く上で、治水事業は、我が国の国土基盤整備の中でも最も根幹的なものであり、疎かにすることはできない。

しかしながら、我が国の治水施設の整備状況は依然として低い状況にあり、今年も、7月の台風6号、台風7号、10月の台風21号により、延べ約7万世帯、約20万人に避難指示・勧告が出され、1万棟を超える床上・床下浸水を受け

るなどの被害が発生している。また、世界に目を向ければ、ドイツ、チェコ、中国、韓国など世界80カ国以上1,700万人以上の人々が洪水被害を受けるという異常な事態が発生している。我が国においても、1時間に100mmを越す雨量を記録するようなゲリラ的豪雨が頻発傾向にあることから、少なくとも、計画的に治水対策を推進していくことが極めて重要である。

一方、中国、アメリカ、インド等をはじめとする各国及び我が国の中部・近畿・四国を中心に渇水による被害が発生している。また、近年、年間降水量が減少傾向になっているとともに、降雨状況が多雨と小雨の開きが拡大している。このため、利水安全度の低下が懸念され、これに対応した水資源開発等による安定的な水の供給を図ることが、格段に重要となってきている。

さらに、自然環境に対する国民の関心が高くなってきている一方、レジャー等に加え、子供の環境学習活動などの河川における利用形態も多種多様になっており、これら要請に応えた河川環境の整備、保全を図っていくことが必要である。

このように洪水・渇水・河川環境を巡る問題は、日本のみならず世界各地での問題となっており、21世紀は「水の世紀」になると言われているなか、来る3月には我が国において、世界水フォーラムが開催される。これを機会に、水問題の重要性・緊急性を全世界に訴えていくべきである。

このような状況に鑑み、21世紀にふさわしい安全で美しい国土づくりを推進する治水・利水事業を強力に推進することは、国政の最大の使命であると信ずる。

ここに、我々は、治水事業促進全国大会を開催し、その総意に基づき、国会並びに政府に対し、次の事項が実現されるよう強く要望する。

記

1. 21世紀における安全で美しい国土づくりを推進するため、新たな長期計画を策定し、地域と一体となってハード・ソフト両面にわたる治水・利水事業を強力に推進すること。
1. 都市化の著しい流域において、法制化も視野に入れて、流域・氾濫域での対応を含む効果的な治水対策を推進すること。
1. 安定的な水の供給を図るため、水資源開発を推進すること。
1. 個性ある地域づくりや地域活性化を図るため、観光、まちづくり等を支援する治水・利水事業を推進すること。
1. 水辺都市再生事業など魅力ある都市の創造・再生を支援する治水事業を推進すること。
1. ハザードマップの整備を促進するとともに、水情報国土の構築により、迅速な危機管理を図ること。
1. 自然再生事業を推進するとともに、河川を巡る多様なニーズに応える河川環境整備を推進すること。
1. 第3回世界水フォーラムを成功させ、世界の水問題の解決に向けた日本の国際的リーダーシップを発揮すること。
1. 平成15年度治水関係事業費について、その必要額の確保を図ること。
1. 本年度の水害・土砂災害の発生状況及び現下の社会経済情勢に鑑み、補正予算を編成し、その必要額の確保を図ること。

以上決議する。

平成14年11月21日

治水事業促進全国大会

<全水連だより>

平成15年度 全水連行事予定

平成15年1月15日 現在
全国治水期成同盟会連合会

月 日	(曜日)	時 刻	行 事	会 場
4月24日	(木)	11:00	全水連春季理事会	麴町会館3F ガーネットの間
6月5日	(木)	13:00	第55回全水連総会	新潟市 ときメッセ
6月5日	(木)	13:30	平成15年度全国治水大会	同 同
10月22日	(水)	11:00	全水連秋季理事会	麴町会館3F ガーネットの間
10月23日	(木)	午 後	中部地方治水大会 (静岡県)	浜松市 アクトシティー浜松
10月23日	(木)	午 後	九州地方治水大会 (福岡県)	福岡市 福岡アクロス
10月24日	(金)	午 後	近畿地方治水大会 (滋賀県)	大津市
10月28日	(火)	午 後	四国地方治水大会 (高知県)	高知市
10月30日	(木)	午 後	中国地方治水大会 (岡山県)	岡山市
			東北地方治水大会 (福島市)	福島市
11月19日	(水)	13:30	15年度治水事業促進全国大会	砂防会館別館

お詫びと訂正

本紙、平成14年12月15日発行の第598号35ページ主催者挨拶 富山県副知事 中沖 豊は、富山県知事 中沖 豊の誤りでした。ご迷惑をお掛けいたしましたことを深くお詫び申し上げます、ここに訂正いたします。